

医心 伝心

夏休みの宿題は 9 月に

県医理事 渡辺 多恵

先日、ある雑誌で夏休みの宿題はいつするか、という著名人アンケートの結果で、早めに済ますという方が半数を超えていて驚きました。圧倒的に8月31日にすると思っていましたので。

今、私の心にひっかかっている宿題は昨年頂いた日医の未来ビジョン委員会の分厚い資料です。日医で平成23年から24年までに6回の委員会を開催され昨年3月に答申としてまとまった委員会資料類。これを踏まえて県医師会でも一度委員会を持ちましたがその後の活動につなげられず、今年で委員会は終了となりました。この答申の目指したものをお伝えする宿題があるような気持ちなのです。

答申の要約目次によると、第I章医師会活動－1 医師に対して、2 国民・メディアに対して、3 政治に対して、4 役員選挙、5 資格認証の可能性、第II章医療制度－1 適切な医療提供体制の提示、2 財源確保への提言、3 縦割り行政解消を要求、医療機関の機能分化、かかりつけの医のありかた検討、第III章－看取り教育、多死時代に残された時間のQOL保持に努力する、という文言が並んでいます。医師会の活動が種々の組織と複雑に関連し、目次が問題のありかの輪郭を指し示すことだけで一仕事なのがわかります。また他の国の医師会がその国の医師会が担っている性格に応じて30%～90%台と組織率が大いに違っていることから、進むべき未来の可能性の幅の広さも感じられ

ます。

この要約の後大部の説明があり、まとめの第IV章として2030年に働く医師モデルが二つ示されています。彼らは生き生きと家庭生活と職業生活を両立しているという様子です。モデル医師Aは、学生時代から医師会学生部会に入会、家庭研修を受け一通りの診療に自信を持てるようになった時点で医師会の斡旋でA病院に就職し、三交代制で長期の休暇をとる。全診療科での保障制度が充実し医療関連死で糾弾されることは無い。厚労省や国交省、消防庁が乗り入れした医療庁でスムーズな救急搬送が可能になり、モニターペイシャントとやコンビニ受診はなくなる。保険医資格は医師会認可。死亡確認は死亡後24時間以内でよくなり、介護報酬も増額し介護施設も充実。医師Bは診療所を複数で運営し、若い時に卵子凍結した先輩が40歳で出産するために休むので、医師会から代診の医師を要請する。夫は医師会派遣で半年僻地に行っているけれど子供を預ける施設があるので、寂しい思いをさせることも無い。医師会長選挙はネットで直接選挙。

この未来ビジョンを進めるにはこの未来のビジョンを私たちが現在のビジョンとして描けるかということですが、とりあえずは未来のビジョンとして神棚にあげてみる、ということに落ち着きそうです。